

## 目指すは「横綱」 ふるさとの期待に 応え闘っていく

1500年以上続く日本の国技「大相撲」。今年の初場所で大関琴奨菊ことしやうきく関が日本人としては10年ぶりに優勝した。その大関が所属する佐渡ヶ嶽部屋に小林出身の一人の青年が入門する。熊添銀次郎さん、18歳。熊添さんは、中学校1年から柔道を始めた。体格の良さから「絶対に強くなる」と周りから期待されていた。その期待通りメキメキと力をつけ中学、高校では九州、全国で活躍する選手へと成長した。中学生時代に、指導していた小林警察署少年柔道クラブの中屋敷一美さんが称賛するのはその努力と才能。「素直で負けず嫌いな性格で、教えたことはすぐ覚える子。努力家で稽古日以外の日もトレーニングを欠かさず、練習日誌には、毎日分らないことやできなかったことを書き連ね研究を重ねていました」。佐渡ヶ嶽満宗親方（元関脇琴ノ若関）は、中学時代から熊添さんの素質に惚れ、スカウトし続けてきた。「体の大きさ、気持ちの強さが魅力。本当は中学校卒業したらすぐ入

門してくれることを望んでいた」とその期待は大きい。そんな熊添さんが、角界を志したきっかけは、延岡出身の力士琴恵光関の活躍。「十両に上がった話を聞き、挑戦したいという思いが強くなり入門を決意しました」。しかし、相撲の世界は厳しい。約700人いる力士の中で、「関取」である十両以上の番付表に名を載せることができるのはわずか70人。近年は外国人力士も数多く在籍し、その厳しさに拍車がかかる。だが、佐渡ヶ嶽親方は「天性の素質がある。相撲は10数秒で勝負の決まる世界。そこで力を出し切れるよう努力を怠らせず進んでほしい」と期待を込める。入門後は「琴熊添」の四股名で闘っていく。「厳しい世界に身を投じることは百も承知。入門したらまずは、体をつくっていく。そして、これまで支えてくれた多くの人に感謝し、その人たちの期待に応えたい。目指すは横綱です」と力強く夢を語った。熊添さんの若き闘志は燃えている。日本相撲会の頂点「横綱」を見据えて。

柔道から角界（大相撲）へ  
くまぞえ ぎんじろう  
熊添 銀次郎 さん  
(18)  
四股名：琴熊添